

2、おむつ交換Ⅱ

小さな足 乳児保育園

子ども 12人 保育士二人 保育助手 1人 (助手は保育には入りません)

AM 10:30頃

慣らし保育中、もしくは、終わったばかりの子なので、お母さんが恋しくて泣いています。保育士は「悲しいのね」と声をかけながらも、靴下はいてみる？と子どもが関心を持つようなことは提案してめています。お尻を洗う時は、子どもの後ろからではなく、子どもが保育士の顔を確認できる位置関係で行います。

決して子どもを勝手に抱き上げたり、引っ張って連れて行ったりすることがなく、子どもの気持ちを優先している保育士の姿が見られると思います。この場面でのポイントは、子どもが悲しくて泣いているところに保育士が共感しながら、丁寧に育児をしているところでしょう。最後には子どもの気持ちも落ち着き、保育士に言葉をかけ始めます。育児の中でこそ、一対一で子どもに安心感を提供できるということが分かる場面だと思います。